

窒素・リン 外洋から原因？ 環境省



海を富栄養化する原因物質の多くは陸から流れ込んでいるという、従来の常識を覆す報告が、瀬戸内海の研究で相次いでいます。

環境省のまとめによると、瀬戸内海における窒素やリンの濃度の平均値は 2004 年度が窒素 0.27mg/L、リン 0.025mg/L で、1970 年代に比べると少し下がりましたが、最近ではほぼ横ばいの状態が続いています。富栄養化が原因の赤潮の発生件数も年間 200 件以上あった以前より減ったものの、1980 年代後半以降は 100 件前後で推移しています。陸からの流入量は下水処理施設の整備などから、25 年前と比べてリンで約 4 割、窒素で 2 割近く減ったのに、目に見えた「改善」に結びついていません。九州大応用力学研究所の柳哲雄教授らなどの瀬戸内海での研究によると、海水に含まれる窒素やリンの半分以上は、陸域からではなく外洋の太平洋から来ているということです。大阪湾のように陸からの物質が多い海域もありますが、外洋起源の窒素やリンは今後の水質管理の上で無視できない存在になりそうです。もともとそれなりの量があることを前提に、陸から流れる量の削減ばかりでない総合的な対策が求められています。

環境省は水質汚濁防止法などに基づく第 5 次水質総量規制で、窒素とリンを規制対象に追加し、工場などに削減を求めてきました。ですが、今年度内に基準案をまとめる第 6 次規制では、瀬戸内海の窒素、リンの環境基準達成率の高さやこうした知見を踏まえ、大阪湾を除く瀬戸内海は、規制強化でなく現状維持とする方向で検討しています。ただ陸域起源の多い大阪湾は、東京湾や伊勢湾とともに、第 6 次規制でもさらなる削減を求めていく考えです。

当社では窒素、リンの分析を行っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

資料：2006 年 1 月 20 日付 朝日新聞

水質分析箇所 伊藤博

The Knights of Environmental Science
内藤環境管理株式会社

〒336-0015 埼玉県さいたま市南区大字太田窪 2051 番地 2
TEL.048-887-2590 FAX.048-886-2817
U R L : www.knights.co.jp

事業内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析 | 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査 |
| 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明 | 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定 |
| 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定 | 7 アスベスト・PCB等の化学分析 |
| 4 水道法第 20 条に基づく水質検査 | 8 EU規制物質の化学分析 |

